

## ◆ 好評！賑わった“まつり古賀”



緑のまちづくりの会は、11月15日の市民球技場で開催された“まつり古賀”に参加しました。

当日は天候に恵まれ、緑の会のテントには顔なじみの会員や一般市民が続々と集まる盛況ぶりでした。

テントには、会員が苦心して工作したエコポット、苔玉、ドングリのトトロ、みんなで育てた花苗、会員提供の新品衣類や日用品、ヤーコンなどの野菜が店頭並び、来客の注目を集めていました。

急ごしらえで売子になった会員は、それぞれの持ち場で笑顔で市民の皆さんに対応して、作品を紹介し買って頂いたり、緑の会のPRや会員拡大のチラシの配布などをしてがんばりました。全員の努力の結果、この日陳列した作品はすべて完売しました。それぞれの場で参加した皆さんの胸に様々な感慨を残して21年度のまつりは終わりました。

## ◆ “グリップーキャンペーン”に参加

10月31日・11月1日の2日間、福岡市東区アイランドシティにて開催された福岡市“グリップーキャンペーン”の園芸福祉の事業の一つ、壁面植栽のトンネル作りに古賀市緑の会メンバーが大いに活躍しました。

9月18日医王寺山の孟宗竹取りから始まり、10月25日・30日のトンネル造りや竹加工と、さすが古賀市緑の会の力と思わせる作品が出来上がり、当日は大勢のお客さんにトンネルで遊んで頂きました。また、古賀市緑の会からコケ玉熊さん人形作りで2日間参加したので、園芸福祉ふくおかネットから「楽しい催事ができました。」と感謝の言葉がありました。



## ◆ 一回目植樹地へ手入

“森づくりの日”の11月18日、緑の会員8名がグリーンパークに集まり第1回植樹祭（平成14年3月）で植樹した林の手入れをしました。この植林地は成長も著しく樹高8mを越える木もあります。林の中で絡んだツルを切り、枯枝を整理すると林は見違えるようにスッキリとなりました。8年の木の成長ぶりを眺め、みんなは感慨深いものを感じていました。

## ◆ グリーンパークで樹木札付ける



10月28日、グリーンパークに10名の会員が集まり樹木札を取り付けました。

グリーンパークでは公園設立当時の樹木札、草名札が年月と共に失われつつあります。緑の会では平成17年にも樹木札を取り付けましたが、この樹木札も古くなり、今回新たに付け直すことにしたもので、樹種を確認しながら、おおよそ100枚の樹木札を取り付けました。

## ◆ 青柳小1年生とドングリ拾う！

恒例になった青柳小学校1年生のドングリ拾いが、4名の会員のお手伝いを得て、10月26日にグリーンパークで行われました。

元気よく公園を訪れた54名の児童は、会員によるドングリの種類を学んだ後、公園内のアラカシ、コナラ、クヌギ、ナラガシワなどのドングリを拾い集めました。帰りには会員が作ったドングリ笛をもらって、楽しい一時を過ごし、公園を名残惜しんで学校に帰っていきました。



## ◆ まつり古賀・裏はなし！

緑のまちづくりの会では、11月15日の“まつり古賀”に出展を計画した直後から、総力を挙げて出展作品づくりに取り組みました。

パンジーなどの花苗は“はなちどり”で8月から苗を育て始めました。11月4日はエコポットを作り、7日はエコポットを仕上げ、苔玉づくり、10日はトトロ、苔玉寄植えを行い、13日は出品作の持出準備、14日は会場道具や作品などを軽トラックに積み込みました。この間延べ42人を越える会員が取り組んでいます。さらに、夜業などでトトロや苔玉などを作り、準備用品調達した方を入れると協力者はさらに増えます。また、バザー出品のために会員から数多くの不要となった日用品や自家製野菜なども届けて頂きました。

まつりの裏では、熱心にそして楽しみながら作品づくりに取り組んでいた会員の姿がありました。

## ◆ 新年会へのお誘い！

恒例の緑の会の新年交流会を 1月9日(土)に千鳥苑「桜の間」にて会費 500円で計画しています。皆さま、お誘い合わせてご参加ください。出欠は 新町090-5929-4053まで。

## ◆ 講演会を企画中！

薛孝夫先生の講演会を1月24日(日)10時～12時で企画中です。日程に入れててください。

### 会員の声

#### 花と緑と海のある古賀で思うこと

私が緑の会と交わり始めてちょうど半年になります。この間、多くの肉体労働も鎌や鉋を使う危険作業も楽しんでできました。そうです楽しんできたのです。夏の下草刈では、流れる汗と作業後のけだるさがなんとも心地よく、そして水のおいしさ、木陰の風の涼やかなことなどを「再発見」しました。かつては誰もが普通に経験していた事を、私は長い間忘れ、不平や不満を困っていたのかもしれない。

スポーツジムでのトレーニングもそれなりの快適さは得られるでしょうが、自然の中での単純な筋肉作業は、そこにはない喜びや充足をもたらすような気がします。それを人間の「原点」などと呼ぶとすれば、便利で快適なはずの現代文明がもたらすひずみや病理も、その原点からはるかに離れてしまったことと無関係ではないでしょう。人は同じ目的を共有し、ともに働くことを繰り返すと急速に接近します。コミュニティの始まりです。きつい作業が楽しかったのは案外そういった理由からかもしれない。方向や考え方を共にしている人たちとの良い人間関係は「所属の欲求」を満たし、心を健康にしてくれます。いま、教えられて蒔いたあの微細なポピーの芽が伸びています。花とそして森についてさらに大きな好奇心が刺激される毎日です。

梶原 邦弘